

INTERVIEW

自治医科大学
大石利雄 理事長



地域医療のリーダーを 育成する大学として

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

離島の課題に取り組んで

山田隆司(聞き手) 今日自治医科大学大石利雄理事長のお話を伺います。まずは大石理事長の簡単なご経歴をご紹介いただけますか。

大石利雄 私は昭和51年に当時の自治省(現在の総務省)に入省し、以来地方行政、地方自治の振興に取り組んできました。採用後3ヵ月間の研修を経て、同期14人が一斉に7月1日に各都道府県の県庁に赴任するわけですが、私は静岡県財政課に赴任になりました。そして翌々年の4月に自治省に帰ってきました。その後昭和58年に28歳で鹿児島県の離島振興課長に着任しました。離島振興課長というポストは、当時全国に長崎県と鹿児島県の2つしかありませんでした。鹿児島県は厳しい離島をたくさん抱えており、種

子島や屋久島に代表されるいわゆる一般離島を対象とする離島振興法と奄美大島から与論島を対象とする奄美群島振興開発特別措置法の両方を所管する課長です。そこが私の役人人生の原点だと言えるでしょう。

離島はさまざまな課題を抱えていますが、特に医療は離島にとって大変重い課題でした。まだ自治医科大学ができて間もない頃ですから、町村長さんにとっては医師の確保が重大な使命でありました。また緊急時には県の防災ヘリやドクターヘリなどない時代でしたから、本土の病院に搬送するために自衛隊のヘリを要請しなくてはならず、救急対応も大きな問題でした。

私の具体的な仕事は全離島の振興計画を策定

することでした。離島振興法と奄美群島振興開発特別措置法のそれぞれがちょうど延長のタイミングで、その法律延長を働きかけると同時に法律延長後の計画作りに取り組みました。鹿児島県には28の有人島がありますが、全島を見てまわりました。長いときは10泊11日という出張になりました。その後企画課長、財政課長に就き、5年半鹿児島県に勤務しました。企画課長の時には県の各界の代表メンバーを構成員にして審議会を開き、議論を重ねながら10ヵ年の総合計画作りをしましたが、非常にやりがいがありました。若い頃にそういう経験をさせてもらった

ことはありがたく、貴重な経験だと思います。

山田 そうですね。自治医大の卒業生も義務年限で地域に赴任し、時にはその地域の医療の責任者として市町村長と話をすることになるわけで、私も若い時に良い経験をさせていただいたと思っています。

大石 自治医大卒業生にとって、医療を任せられることは大きな責任ですが、一方でとてもやりがいがある仕事だと思います。また人間関係で信頼が培われていくことを若い時に経験できるのは良い機会ですね。その点、私の仕事と相通じるものがありますね。

救急医療に関わる

大石 自治省では、財政局の地方債課で課長補佐をして、交付税課長を務めましたので、比較的財政との関わりが多かったですね。

山田 重要なお仕事ですね。

大石 県庁の部長としては、山梨県と北海道で総務部長を経験しました。県の総務部長というのは、人事と予算編成と議会対策を担う筆頭部長ですが、知事の県政運営を支える番頭役です。自治省が、その後総務省になってからは官房総務課の仕事や人事担当の秘書課長、官房長を経て総務事務次官に就任しました。

官房長の前に実は自治大学の校長も務めました。自治大学校というのは、昭和28年に設置された幹部地方公務員の養成機関です。まさに人材育成の仕事です。

また、総務省秘書課長の後、内閣官房に異動になり、そこで「有事の国民保護法制」を策定する担当審議官になりました。防衛、警察、国交、厚労等の関係省庁の協力を得て、地方団体の理解の下に法整備をしました。非常にいい経験になりました。法律が通ったのが平成16年ですか

ら、もう16年になりますね。

山田 それまではそういう法律がなかったのですね。

大石 以前は、武力攻撃やテロ等の有事にいかにも国民を安全に避難させるかという法律はありませんでした。その時危機管理の仕事をした経験から、その後消防庁次長を3年、消防庁長官を1年務めることになりました。消防というのは救急を所管していますから、救急医の先生方との付き合いもそこで生まれました。

私が消防庁次長の時に、奈良県で搬送先がなくいわゆるたらい回しで妊婦さんが亡くなるという事件がありました。たらい回しという言葉が死語にしないでほしいと思います。救急搬送の仕組み作りに取り組みました。その後その法律が成立し、救急隊と病院の連携の仕組みができたのはよかったと思っています。また、救急車の頻回利用が問題になって救急の有料化の議論が巻き起こった時には「救急のあり方に関する検討会」を立ち上げました。人命を守ることは地方自治の基本であり、有料化するよりは適正な利用を促すことに注力すべきではないかという